

平成 26 年 1 月 6 日

年 始 挨拶

北口 治

新年明けましておめでとうございます。今年の正月は久しぶりの長い休みでしたが、皆さんはゆっくり英気を養うことができましたか？

昨年は色々な明るい兆しが芽生えた年でした。アベノミクスの三本の矢が放たれ、リーマンショック以来落ち込んでいた株価も急回復し、為替も適正値に戻り始めました。愛知沖にメタンハイドレート希望の火が灯り、小笠原には新しい島まで誕生しました。そして何よりも 2020 年東京オリンピックの招致が決定しました。

また伊勢神宮と出雲大社の遷宮が珍しく同じ年に重なりました。伊勢の式年遷宮は 20 年毎に座を移しますが、昨年までの「米座(こめざ)」に神様がおられる時は「精神の時代」と呼ばれ、穏やかで文化が栄える一方、経済的には低迷する傾向があります。この間、日本は「失われた 20 年」と呼ばれ、長いデフレに苦しみ GDP も世界第 2 位の座から転落しました。これから始まる「金座(かねざ)」は「経済の時代」と呼ばれ、物質欲が強くなりトラブルが起きやすい傾向があるものの、経済が大発展する時代です。前回の金座の時代はまさに日本の高度成長に拍車がかかりバブル景気にまで上り詰めました。

正月の初夢に 2020 年の NPC の姿を思い浮かべました。夏に東京オリンピックの開催を控え日本中が好景気に沸き立つ中で、NPC は売上も社員数も現在の 2 倍の規模に成長しています。技術情報に強いプラスチック専門商社として存在感を増し、樹脂・フィルム・加工品のビジネスを通じて産業界に大きく貢献しています。「CEBON」戦略が浸透し、特に超エンプラの取扱額が世界一を達成しつつあります。新しいビジネスの比率が常に 20% を超え、ユーザーの企画・開発に活発な提案活動を展開しています。グループ製造会社の商品の販売やそれらの会社に製造を委託するビジネスも伸長し、主体性やオリジナリティが高く、所謂「はずされない」ビジネスの比率が拡大しています。輸出入ビジネスも多くなり、グループ海外現法への駐在員も継続して派遣しています。営業をサポートする在庫・物流・デリバリーなどのカスタマーサービス機能も充実し、管理面でもリスクマネジメントが強化され、コンプライアンス厳守の運営が行われています。財務体質も強化され、自己資本比率は 20% を超えています。

さて希望の 2014 年が開幕しました。将来ビジョンを達成するための重要な年です。NPC はプラスチックビジネスにおいて川上の樹脂から川下の加工品まですべてをカバーし、汎用樹脂もエンプラも、国内品も海外品もすべてをフォローし、メーカーシーズとカスタマーニーズの最適な出会いを創出しています。その中でも超エンプラは日本の最も強い産業にアクセスするためのキーカードとして、NPC ビジネスの全体を牽引しています。失われた 20 年の間に、家電・OA・情報機器など完成品の国際競争力は低下しましたが、それらに使われる最先端部品や高機能素材は世界最強を維持しています。液晶分野でのガラス基板・偏光板・保護フィルムや、半導体におけるシリコンウエハー・フォトマスク・フォトレジスト、また自動車・情報通信・医療・環境・食品・その他に使われる機能部材の世界シェアは圧倒的です。これまで日本の製造業は、円高とデフレの中で海外シフトを余儀なくされ、国内の空洞化に苦しんできました。国際競争力を取り戻しつつある現在、各産業で少しずつ国内回帰の動きが始まると思われれます。今後はむやみやたらと海外に生産を移すのではなく、例えば高機能製品は国内生産、汎用製品はアジア生産、また国内向けは国内生産、海外向けは海外生産というような適切なポリシーで運営されるようになるでしょう。現在協議が進められている TPP も、真の意味でのグローバル化への追い風となることが期待されます。これまで全員一丸となって努力を積み重ねてきた NPC は、この大舞台に立つ資格が充分にあると信じています。

今年は消費増税の駆け込み需要とその反動、その後の回復過程と、激しく景況が変動するでしょうが、基本を忘れず方向を見失わず脇を締めて進みましょう。「世界一のプラスチック専門商社」を目指して、傍々（はたはた）を楽にさせる「はたらく」と顧客を飽きさせない「あきない」を実践し、やりがいと陽気に満ち溢れた職場で「The Joyous Work」を推進しましょう。

2014 年の仕事が今日から始まりますが、皆さんにとって素晴らしい年となることをお祈りして年頭の挨拶としたいと思います。

以上